大曽根家の朝（1946）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 81分
初公開日 1946/02/21

【解説】
木下恵介が戦後初めて監督した作品で、久坂栄二郎が脚本を担当。GHQの指導により、軍国主義を批判する反戦映画として製作された。
大曽根家は裕福な家庭だったが、長女の婚約者が出征、長男は思想犯として検挙され、画家を目指していた次男は応召、空襲で焼け出された叔父夫婦が移り住んでくるなど、戦争に翻弄されていた。軍人である叔父は我が物顔で暮らし、その叔父に感化された三男は海軍予備学生を志願してしまう。叔父は母の許可を得ずに話を進めてしまうばかりか、長女の縁談まで勝手に進めようとしていた。やがて叔父は終戦の知らせを誰よりも早く入手、物資を大量に持ち込み始めた。母の房子は叔父の態度を責め、ついには叔父夫婦を家から立ち退かせるのだった。

【クレジット】
監督 木下恵介
製作 細谷辰雄
企画 細谷辰雄
脚本 久板栄二郎
撮影 楠田浩之
美術 森幹男
音楽 浅井挙曄
出演 杉村春子　大曽根房子
長尾敏之助　長男　一郎
徳大寺伸　次男　泰二
大坂志郎　三男　隆
三浦光子　娘　悠子
小沢栄太郎　大曽根一成
賀原夏子　妻　幸子
増田順二　実成明
藤輪欣司　丹波平兵衛
西村青児　特高主任
鈴木彰三　古賀
高松栄子　婆や
国兼久子　女中
東野英治郎　八巻一平

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.